



少子・高齢社会に関する調査



～あなたのご意見をお聞かせください～

平成15年度県民意識調査

兵庫県では、県民の皆さまとともに阪神・淡路大震災からの創造的な復興をめざすとともに、多様な地域に多彩な文化と豊かな暮らしを築く「美しい兵庫」づくりを進めています。

この調査は、皆さまのご意見をそうした政策に反映させるために実施するものです。

多くの県民の皆さまの中から、あなたを回答者のお一人に選ばせていただきました。

この調査は無記名でお願いいたしますので、個人的にご迷惑をおかけすることはありません。ご多忙中まことに恐縮ですが、ぜひご回答をお願いします。

(調査の趣旨)

- ・我が国では、世界でも類を見ない速度で人口の少子化、高齢化が進んでいます。
- ・兵庫県においても、2010年ごろをピークに総人口が減少し、2030年には、子どもの数が県の総人口の11%、老人の数が28%程度になるという予測もあります。
- ・今後の少子・高齢社会が豊かな社会であり続けるためには、既存の制度やしきみを少子・高齢社会にふさわしいものに変えていく必要があります。
- ・今回の調査では、少子・高齢社会における県政の目標、推進方策等について検討をする際の参考とさせていただくため、県民の皆さんに意見をお聞きするものです。
- ・調査結果は、年度末をめどに、県の広報やインターネットなどで公表するとともに、県政の貴重な資料として活用していきます。

平成15年10月

兵庫県知事 井戸敏三



回答ご記入についてのお願い

ご回答は、必ず**あて名の方が**ご記入くださいますようお願いいたします。

ご記入いただいたアンケート用紙は、同封の返信用封筒に入れて、恐縮ですが、

11月12日(水)までにご投函くださいますようお願いいたします。

調査についてご不明の点は、下記にお問い合わせください。

兵庫県広聴室広聴係 TEL 078(362)3021(直通)



ご案内をします、
このとりの「こうちゃん」です。
まず、「少子・高齢社会に対する関心・
イメージ」についてお聞きします。

Q1 あなたは、理想として、あなた自身に何人くらいの子どもがいるのがよいと思いますか。

- 1 ()人 2 わからない

Q2 あなたは「お年寄り」というのは年齢的に見て、何歳以上の人をイメージしますか。次の中から1つ選んで番号に 印をつけて下さい。

- 1 60歳以上 2 65歳以上 3 70歳以上
4 75歳以上 5 80歳以上 6 その他()
7 一概にいけない 8 わからない

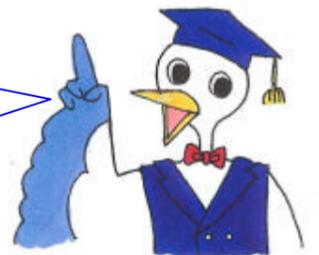
Q3 あなたは、今後迎える本格的な少子・高齢社会についてどのようなイメージをお持ちですか。あなたのイメージに近いものを、次の中から3つ選んで番号に 印をつけて下さい。

- 弱者に対する思いやりにあふれた社会
- 働く世代の経済的な負担が増える社会
- 高齢者が元気に活躍する社会
- 病気や寝たきりの人が増える社会
- 若年層の減少で高齢者などの就労機会が増える社会
- 地域の活力や経済の成長が停滞する社会
- 子ども一人ひとりの教育が充実する社会
- 一人ぐらしの高齢者が増える社会
- その他()
- わからない

Q4 あなたは、少子・高齢社会について、どの程度関心がありますか。次の中から1つ選んで番号に 印をつけて下さい。

- 非常に関心がある
- ある程度関心がある
- あまり関心がない
- まったく関心がない
- わからない

次は「少子・高齢社会における
ライフスタイル」についての質問です。



Q5 子育てについては保護者だけである、保護者の親の協力を得る、地域の人たちも積極的に関わるなど、様々な考え方があります。あなたの考え方に近いものを次の中から1つ選んで番号に 印をつけて下さい。

- 子育ては子どもの保護者が行うべきもので、たとえ保護者の親といえども他の人は一切関わらないのがよい
- 子育ての協力を頼むのは、保護者の親など近い親族までである
- 子育てには、保育所や幼稚園など公的機関が関わるのがよい
- 子育てには、近所の親しい知り合いが関わるのがよい
- 子育てには、地域に住む同じように子育て中の親たちも関わるのがよい
- 子育てには、高齢者をはじめ、地域に住む様々な年代の人たちが多数関わるのがよい

Q 6 現在あなたは、以下の活動に関してどの程度力を入れて取り組んでいますか。あなたに当てはまるものを各項目とも1つずつ選んで番号に印をつけて下さい。

	やっている	少しやっている	どちらともいえない	あまりやっていない	やっていない
--	-------	---------	-----------	-----------	--------

- | | | | | | |
|----------------|---|---|---|---|---|
| 1 家事 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2 仕事（職業） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3 地域（コミュニティ）活動 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4 健康づくり | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5 趣味 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

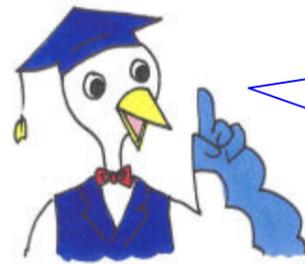
Q 7 少子・高齢社会に向けて、今後あなたは、以下の活動に関してどの程度重視して取り組む予定ですか。あなたに当てはまるものを各項目とも1つずつ選んで番号に印をつけて下さい。

	重視する	少し重視する	どちらともいえない	あまり重視しない	重視しない
--	------	--------	-----------	----------	-------

- | | | | | | |
|----------------|---|---|---|---|---|
| 1 家事 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2 仕事（職業） | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3 地域（コミュニティ）活動 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4 健康づくり | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5 趣味 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

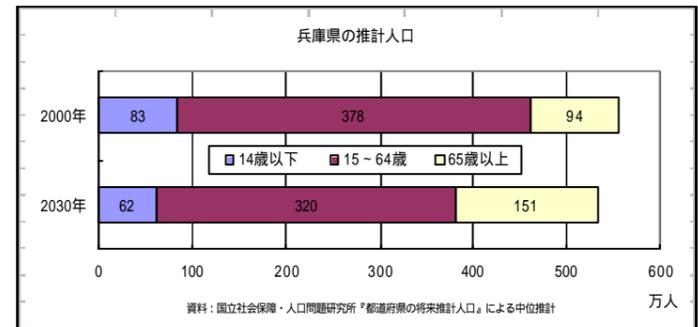
Q 8 あなたは、今後、あなた自身が介護を受けることが必要になったとき、どのようにしたいと思いますか。次の中から1つ選んで番号に印をつけて下さい。（現在介護を受けている方は、今後の希望についてお答え下さい。）

- 1 在宅で、家族に介護をしてもらいたい
- 2 在宅で、ホームヘルパーなどの介護サービスを利用して介護をもらいたい
- 3 老人ホームや病院、ケア付高齢者住宅などの施設で介護をもらいたい
- 4 その他（ ）



次に、「少子・高齢社会に向けた対策」についてお聞きします。

Q 9 子どもの数が県の総人口の11%、老人の数が28%程度になると予想されている西暦2030年ごろに向けて、あなたは、今後、行政が取り組むべき以下の対策について、特に優先すべきだと思うものを次の中から3つ選んで番号に印をつけて下さい。



- 1 保育所や児童館などの多様な子育て支援
- 2 生涯を通じた健康づくりの推進
- 3 保健医療体制の整備
- 4 在宅介護の推進
- 5 民生・児童委員の活動強化など地域の福祉活動の推進
- 6 障害者福祉の充実やバリアフリー化の推進
- 7 生涯学習の推進
- 8 性別に関わりなく個性や能力を発揮することができる男女共同参画の推進
- 9 雇用の確保
- 10 ボランティア活動の支援
- 11 青少年の健全育成

Q 10 あなたは、少子化対策を行うことについてどのように思いますか。あなたの考え方に近いものを次の中から1つ選んで番号に印をつけて下さい。

- 1 結婚、出産を阻む要因を取り除くような環境整備だけを行うべきだ
- 2 結婚、出産の奨励を積極的に行って、少子化を解消すべきだ
- 3 結婚、出産は個人の問題なので、少子化対策は一切すべきではない
- 4 わからない

Q11 安心して子どもを生み育てられる社会をつくるために、特に大切だと思ふものを次の中から3つ選んで番号に 印をつけて下さい。

- 1 夫婦間での家事・育児の協力
- 2 子育てに対する祖父母からの支援
- 3 子育てサークルなど親同士の助けあい
- 4 子育てに対する近所の人たちの支援
- 5 労働時間の短縮や在宅勤務の普及
- 6 育児休業や再雇用制度などの普及、確立
- 7 子育てに対する経済的支援（児童手当、税の控除など）
- 8 保育所、児童館などの充実
- 9 妊娠、出産、子育てに関する相談窓口の充実
- 10 広さに余裕のある住宅
- 11 子どもが安全に生活できる地域環境
- 12 その他（ ）

Q12 あなたは、だれもが健康に過ごせる社会を築くための以下の対策について、どの程度重要だと考えますか。それぞれの項目について、あなたのお考えに近いものを1つずつ選んで番号に 印をつけて下さい。

重要である	少し重要である	どちらともいえない	どちらともではない	あまり重要ではない	重要ではない
-------	---------	-----------	-----------	-----------	--------

- | | | | | | | |
|---|----------------------------------|---|---|---|---|---|
| 1 | スポーツや趣味を楽しめる施設や教室を増やす | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2 | 公園など、自然と触れることのできる場所を増やす | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3 | 地域の医療機関や医療従事者を増やす | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4 | 生活習慣病の予防や健康づくりについての情報提供や相談窓口を増やす | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5 | 食事や栄養、ストレスへの対処方法などについての健康教室を開催する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6 | 休暇が計画的に取れるような環境をつくる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7 | 定期的に健康診断を受けるように促す | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

また、「これからの負担と給付のあり方」についてお聞きします。



Q13

わが国では、介護保険や年金、医療などの社会保障給付費の負担は、現行制度のままでは、2025年度には、現在の1.5倍まで上昇するという試算もあります。

2025年ごろにおける社会保障給付と、個人の負担（税金や保険料など）について、次の意見のうち、あなたの考え方に最も近いものを1つ選んで番号に 印をつけて下さい。

- 1 社会保障給付の水準を維持するため、負担が現在の1.5倍程度（イギリス並み）まで重くなってもやむを得ない
- 2 社会保障の充実のため、負担が現在の2倍程度（ドイツ・フランス並み）まで重くなってもやむを得ない
- 3 社会保障の一層の充実のため、負担が現在の2.5倍程度（スウェーデン並み）まで重くなってもやむを得ない
- 4 個人の負担を今より重くしないために、社会保障給付が現行の水準より（ ）割程度低下してもやむを得ない

低下してもやむを得ないと思う割合を記入してください
(1~9までの整数で記入してください)

5 わからない

Q14 少子・高齢化が進むと、年金などの社会保障制度の給付を受ける高齢者が増えて、それを負担する将来の世代が減ると、制度を見直す必要があります。見直し方について、あなたの考え方に近いものを次の中から1つ選んで番号に 印をつけて下さい。

- 1 高齢者への現在の給付水準を維持し、将来の世代の負担を上げる方向で均衡させるべきである
- 2 高齢者への給付水準を抑制し、将来の世代の負担をできるだけ上げない方向で均衡させるべきである
- 3 高齢者への給付水準もある程度抑制し、将来の世代の負担もある程度高めていく方向で均衡させるべきである
- 4 その他（ ）
- 5 わからない

